

■レンジ相場が続く日本株

日本株相場は不透明感の強い展開が続いています。9月末の自民党総裁選を経て誕生した石破新政権の経済・金融政策スタンスを見極めようとする動きや、米景気後退懸念の高まり等を背景に、ややボラティリティの高いレンジ相場となっています(図表①)。

ただし、米景気は依然としてソフトランディング(景気の軟着陸)が予想されていることから、後述の日米における重要選挙を無事通過すれば、政局を巡る不透明感が払拭されることで年末に向けての株高が期待されます。

■注目集まる解散総選挙と米大統領選

石破首相は9日、戦後最短となる就任8日後の衆院解散に踏み切り、27日の投開票に向けて選挙戦をスタートさせました。

図表②は、直近10回における衆院選前後のTOPIX(東証株価指数)の値動きを表したものです。自民党が単独で議席の過半数を確保した局面では、新政権に対する期待感の高まりや政局の安定性が評価されたことで選挙後のTOPIXは堅調に推移した一方、単独過半数割れとなった局面では、政局に対する不透明感の高まりから軟調な推移となっています。

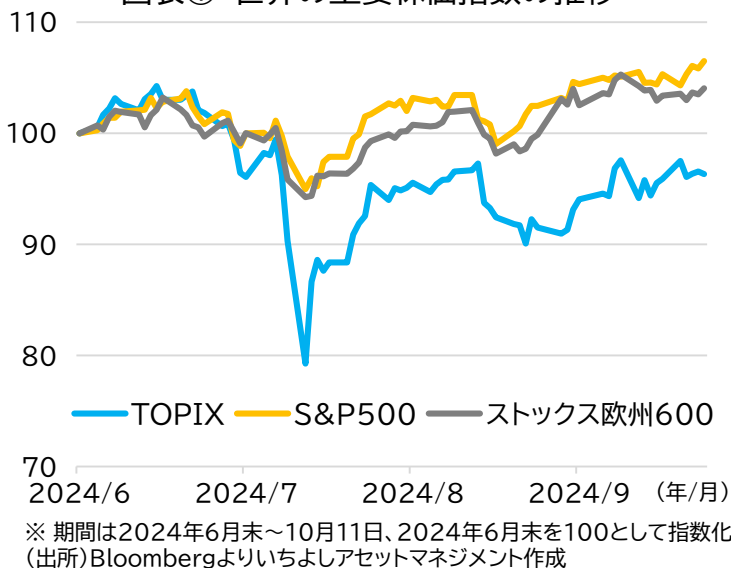
そのため、まずは自民党が単独過半数を確保できるかに注目が集まると考えられます。

一方、来月5日の投開票まで1カ月を切った米大統領選は、接戦で最終盤を迎えています。各種世論調査における支持率の平均を見ると、民主党候補のハリス副大統領が共和党候補のトランプ前大統領を僅かにリードしている(13日時点でハリス氏49.1%、トランプ氏47.4%)ものの、情勢は依然として不透明であり、どちらが勝ってもおかしくないと思われます。

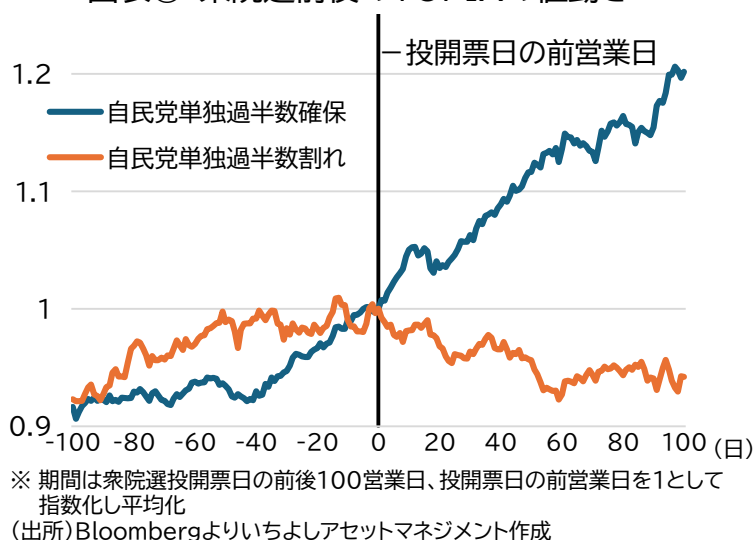
図表③は、米大統領選後のS&P500の騰落率を表したものです。直近10回において、年末までの騰落は7勝(上昇)3敗(下落)、翌年1年間の騰落は9勝1敗となっており、大統領選後は株高の経験則があると言えます。

引続き米景気や金融政策の動向には注視が必要と思われますが、日米における重要選挙通過後の新政権に対する期待感の高まりが、日本株を下支えするものと思われます。

図表①:世界の主要株価指数の推移



図表②:衆院選前後のTOPIXの値動き



図表③:米大統領選挙後のS&P500の騰落率

